

Apache Cassandra、MongoDB など NoSQL DB & Big Data

ドライバー 6 製品および Microsoft Access ドライバーをリリース

11月22日、CData Software Japan 合同会社（宮城県仙台市、代表社員 職務執行者 疋田圭介）は、NoSQL DB & Big Data ドライバー（Apache Cassandra、MongoDB、DynamoDB、Couchbase、Google BigQuery、Azure Table）、および Microsoft Access ドライバーを日本語フルローカライズでリリースしました。

【リリース製品一覧】

カテゴリ	製品名	バージョン	エディション
NoSQL DB & Big Data	Apache Cassandra Drivers	製品版	JDBC
	MongoDB Drivers		ODBC
	DynamoDB Drivers		ADO.NET
	Couchbase Drivers		Excel Add-In
	Google BigQuery Drivers		*SSIS
	Azure Table Drivers		*BizTalk
データベース	Microsoft Access	ベータ版	(*英語版のみ)

<NoSQL & Big Data ドライバーのニーズ>

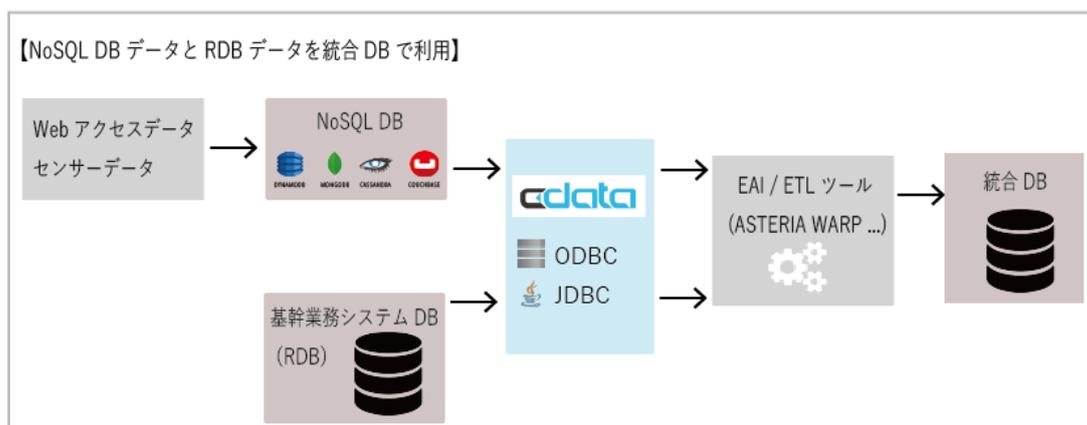
NoSQL DB は、Web サービスやクラウドサービスの利用が拡大する中、アクセスデータやセンサーデータ（IoT を含む）といったビッグデータを扱うデータベースとして、近年急速に利用が増加しています。容易なスケールアウト、項目追加が不要など従来の RDB のボトルネックを解消できる点がメリットです。

一方、RDB はその堅牢さ以外にも、多くの企業の基盤システムでの利用実績、エンタープライズエンジニアの豊富な運用実績、充実したデータ連携ツールや帳票・BI ツールの利用可能性などのメリットがあります。NoSQL 導入企業には、「NoSQL DB 上のデータと既存の RDB データとを統合して利用したい」、「NoSQL データを使って帳票作成、ビジュアライゼーション・BI ツールなどでの分析をしたい」というニーズが顕著になっています。ただし、スキーマレスな NoSQL データの統合および既存ツールでの利用には技術的に大きな困難があります。

そこで、CData の NoSQL DB 用ドライバーを使えば、NoSQL データの他のアプリケーション・ツールへの統合が簡単に実現できます。

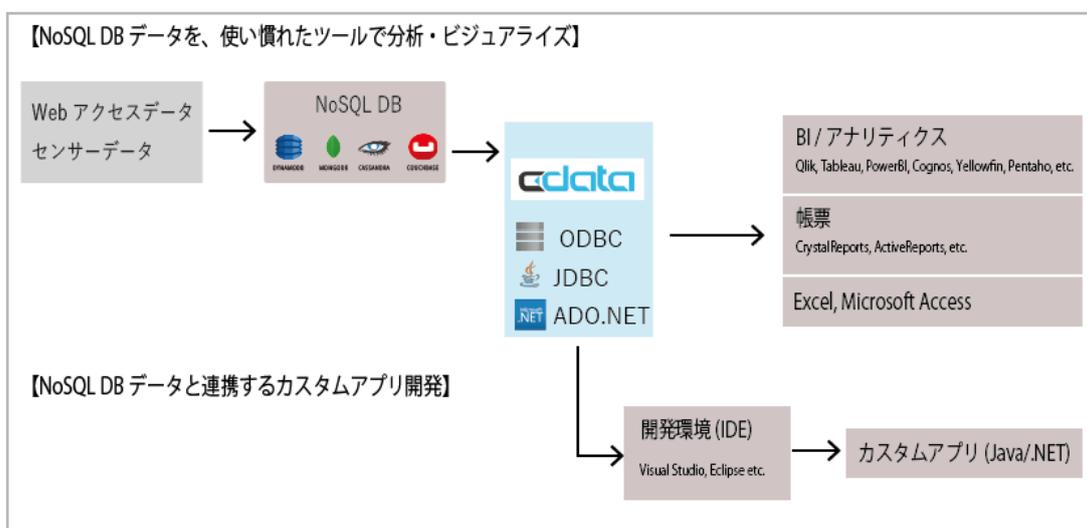
<CData NoSQL DB & Big Data ドライバー利用例>

ETL/EAI などのデータ連携を行うツールに CData ODBC Drivers または CData JDBC Drivers を組み合わせることによって、NoSQL データをテーブル型データとしてツールから利用することが可能となります。基幹業務システムの RDB とデータを統合して利用することで NoSQL データを最大限に業務で活用できます。



また、アクセスデータやセンサーデータを BI ツール、帳票ツール、または使い慣れた Excel から参照、クエリすることが可能となります。ツール側に CData ドライバーを配置するだけで、RDB をデータソースと同感覚で NoSQL DB をシームレスにデータソースとして、ビジュアライゼーションや分析を行うことができます。

Visual Studio や Eclipse などの開発環境に CData ドライバーを統合すれば、NoSQL データと連携する .NET/Java アプリケーションを簡単に開発することも可能です。



CData の NoSQL DB データドライバーの特徴：

- スキーマレスな NoSQL データを自動検出によりモデル化して RDB と同感覚なテーブルデータとしての利用を実現
- それぞれの DB の API や固有クエリではなく、エンタープライズエンジニアが慣れ親しんだ標準 SQL を使ったデータ処理が可能
- JDBC、ODBC、ADO.NET、Excel Add-In の各エディションを提供し、主要な IDE、BI、帳票、ETL などのツールからシームレスに利用

<Microsoft Access ドライバー>

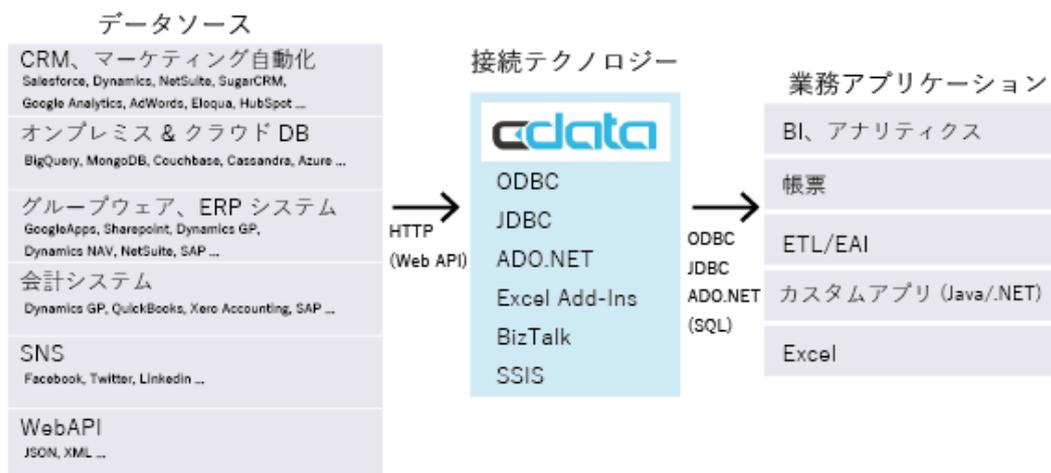
Microsoft Office ツールである Access は、便利なデータベースツールとして多くのユーザーにデスクトップで使われているだけでなく、Java アプリケーションのデータソースの一部として使われているケースも多くあります。ただし Java 8 以降、JDBC-ODBC ブリッジが提供されなくなったため、Java アプリケーションから Access への接続がサポートされなくなっており、Java 最新版へのアップデートをためらっていたり、Access からデータベースの移行を余儀なくされているユーザー企業が存在します。CData JDBC Driver for Access を使えば、カスタム Java アプリケーションや JDBC を使う BI、帳票、ETL などのツールから Microsoft Access へのシームレスな接続が可能になります。

製品説明や 30 日間の無償トライアル版のダウンロードサイト：

<http://www.cdata.com/jp/download/>

<CData ドライバーとは>

CData ドライバーは、アプリケーション、DB、Web API のデータに、ODBC、JDBC、ADO.NET などの業界標準データ接続テクノロジーでのアクセスを実現する高機能データドライバーです。お客様のオンプレミス/クラウドアプリケーション、BI、帳票、ETL ツールから 60 を超えるデータソースにシームレスなデータ連携が可能となります。慣れ親しんだ標準 SQL で Web API を扱え、データ連携をするアプリケーションやツール側の改修が不要なことから、世界中の企業、政府機関、研究機関にて利用されています。



CData は、アメリカノースカロライナ州の CData Software, Inc. の登録商標です。その他の社名・製品名はそれぞれの会社の登録商標です。

本件に関するお問い合わせ先

CData Software Japan 合同会社 マーケティング 兵藤
TEL : 050-5578-7390 | E-mail : press@cdata.co.jp